

熊野に再生の春!

復興編

台風被害から1年半余り。熊野地域の観光拠点が続々と復旧、にぎわいを取り戻している。芽吹き季節を迎えた今、たくましい笑顔がはじける。



鮮やかな社殿の朱色と、青々と芽吹いた若葉とのコントラストが壮麗な季節を迎えた。



那智の大滝は被害を免れ、神々しさも姿も以前と変わらない。滝壺にかかる虹も美しい。



雨と濁流のため、滝壺周辺の崖は大木ごと激しくえぐられ、むきだしの足場になった地面が痛々しい。仮設の足場が組まれ、重機やトラックが巨大な岩の撤去作業を続けている。

DATA

■世界遺産熊野本宮

住所/田辺市本宮町本宮100-1
電話/0735-42-0751
<http://www.city.tanabe.lg.jp/hongukan/>

■熊野那智大社

東牟婁郡那智勝浦町那智山1
電話/0735-55-0321
<http://www.kumanoachitaisha.or.jp/>

護岸の補強が急ピッチ 夏の復旧を目指す

真新しく塗り替えた社殿の朱が、春の陽光の中、ひとときわ鮮やかに映える。「山登りでいえば、ようやく山頂が見え始めた」というところですが「朝日芳英宮司は、顔をほころばせる。

平成23年の台風12号から2年度目の春を迎えた熊野那智大社。土砂崩れで埋まった社殿は復旧、悠々と流れ落ちる大滝も健在ながら、滝壺周辺では現在も、大型重機が動き回り、護岸の補強作業を急ピッチで進めている。

現場では、高さ20メートルを超えるご神木が約60本も川をせきとめるようにして倒れたため、二次災害を避けるためにも早急に撤出する必要があった。1本1本、大型クレーンで取り除きトラックで撤出。これだけでも1年必要な大工事だった。

大木とともに根こそぎ流され、崩れやすくなったむきだし崖は、モルタルで固めたあと、景観になじませるよう自然石を敷き詰めていく。夏ごろに定の復旧を目指す、元の姿に戻すには数年かかるという。

「歴史ある大社をこのままにす

ることはできない」という一心で、一日も休まずがんばってきた」と朝日宮司。聖地を守る熱い思いが、復興の原動力になっている。

熊野本宮の「玄関口」 情報発信拠点が復活

毎年、大勢の初詣客でにぎわう熊野本宮大社。あの台風から1年4カ月が過ぎ、世界遺産熊野本宮の復旧工事が完了。平成25年元日に再オープンした。「今年はいとりわけ感慨深い正月になりました」と鳥居泰治館長は話す。

熊野信仰や本宮の変遷など、写真やジオラマで紹介する同館は、和歌山県世界遺産センターを併設し、熊野本宮だけでなく世界遺産の魅力を紹介する拠点



地元の木材をふんだんに使用した同館は天井も高く、自然光が優しく差し込む。古道歩きや観光案内スタッフも常駐し情報拠点として活用されている。



同様の被害を防ぐため基礎部分を1.5m高くしたと説明する館長。

被害を教訓に基礎部分を約1.5メートル高くした。再オープン当日、「本当に人が戻ってくるのだろうか?」と心配したが、初日だけで約1500人が来館し胸を撫で下ろした鳥居館長。「熊野古道のシンボルとして、また地域の人たちとの連携を深めながら、今後も熊野の魅力を発信していきたい」と語った。